

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	三次市立みらさか小学校		
学校長氏名	今井 敏雄	栄養教諭氏名	杉原 貴代美
職員数	20名	児童・生徒数	154名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

食事のマナーについて、「正しい姿勢」で食事をするために「正しいはしの持ち方」ができるように給食の時間や学級活動などで掲示資料等を用いて指導するが、改善できていない。

食事マナーの一環として食器を丁寧に運ぶことも指導している。各学級で食器の破損0を目指す目標を立て、給食当番活動や給食時間の過ごし方について各学級で指導しているが、なかなか減少につながらない。

教育活動全体で食育を計画的に進めていくために、各教科、特別活動（学級）、道徳の時間等の学習に食に関する内容を盛り込む必要がある。しかし、共同調理場との兼務という実態もあり、教務部や担任との連携が十分にできていない。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・食器破損事故(破損食器数)を減らす。(前年度比較で10%減)
- ・正しくはしを持ち、使える児童を増やす。(正しく持てる児童5%増)
- ・食事前後および食器受渡時のあいさつができる児童を増やす。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】(テーマ) 食事のマナーの定着を図る取組

- ・「正しい姿勢」で食事ができるようにするために、年間を通して、授業時間、給食時間の姿勢について指導を行った。
- ・「はしの持ち方」について調査し、給食時間や特別活動（学級）などの時間に指導した。
- ・児童へ食事のマナーなどに興味や関心を高めてもらうため、食育掲示板の充実を図った。
- ・食事マナーとして食器を丁寧に運ぶ指導として、食器事故0を目指した。保健給食委員会の呼びかけにより各学級で作戦をたて、1年間を通して食器事故をなくす取組を行った。各月末には食器事故0が達成できた学級に出向き表彰を行い、1階ホールにその結果を掲示している。

【取組2】(テーマ) 食育について理解と関心を高める取組

- ・毎月19日(食育の日)に合わせて「みらさか『食』通信」を作成し、保護者に配付した。「食」について毎回テーマを設け、食に関する言葉、関連する書籍を紹介するコーナーなどで内容の充実を図った。
- ・1年生保護者に対して給食試食会を実施した中で、三次市で取り組んでいる「健塩」について話し、学校給食の取組への理解や家庭での協力をお願いした。
- ・食育参観日で各学級の実態に応じた「食」の授業を行い、児童と保護者が一緒に「食」について学び考えるよい機会となった。
- ・地元生産者を学校に招き、各学級で児童とともに給食を食べ相互理解を深めた。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・ひろしま給食の決定後、教育委員会担当者と三次市栄養士協議会で実習を行い、各自が提出した献立案を協議し、「ひろしま給食の日」の三次市統一メニューを立案した。
- ・JA女性部の方たちと共催で実施している地元野菜を使った料理教室で「ひろしま給食」を実習し、三次市統一メニューを決めている。「ひろしま給食」について関心をもっていただくことができた。
- ・「夏休み親子クッキング教室」を開催し、「ひろしま給食」を親子で調理実習し、関心を高める取組を行った。
- ・「みらさか『食』通信」へ「ひろしま給食」について掲載し、児童生徒、保護者に関心をもってもらうように工夫した。9月の給食試食会では、「ひろしま給食」県内統一メニューを保護者に試食していただき「ひろしま給食」への理解と協力を呼びかけた。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・学級での取組目標の設定や、児童一人ひとりが気を配ることで、食器の破損が減少している。
- ・毎日の給食時間等での取組の中で、食器やはしの持ち方、よい姿勢で食べることなど食事のマナーを守って食べる児童が増えた。
- ・「食生活アンケート」では、児童の約80%が「給食が好き」だと答えている。
- ・食育掲示板や給食放送、道徳の時間などの学習を通して、児童の「食」への関心が高まり、感謝の気持ちをもって給食を残さずに食べようとする姿が見られるようになった。

【課題】

- ・「食生活アンケート」の結果から、家庭で食事の準備や片づけをしている児童は一定数いるものの、まったく手伝いをしない児童が20%いる。「食」の学びや体験が家庭で十分実践できていない。
- ・朝食をとって登校する児童は98%いるが、十分な「朝食」になっていない実態がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・給食時間を中心とする学校での食育により、食事マナーの定着と給食内容の充実を図っていきたい。児童の「食」への関心が、家庭での実践に生かされるよう3点固定(起床時刻、学習開始時刻、就寝時刻)の調査と合わせて、家庭を巻き込んだ取組が必要だと考える。
- ・教科等における食に関する指導を充実させるために、具体的な指導計画を作成し、学級担任等と密に連携をとり実践していく体制をつくる。

